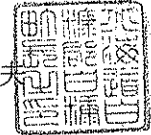




白企第60号
平成19年4月26日

国土交通省道路局長 様

白糠町長 棚野 孝夫



中期的な計画の作成にあたっての意見について（回答）

平成19年4月2日付国道企第114号で依頼のありました標記の件について、下記のとおり回答いたします。

記

当町は、これまで豊かな海の恵みに支えられた水産業、広大な土地と冷涼な気候を利用した酪農業、エネルギー資源である石炭鉱業などを基幹産業として発展してきましたが、近年では、北洋・沖合域での漁獲量の減少、農畜産物の輸入自由化、太平洋炭坑閉山など、基幹産業の衰退により、道内でも厳しい経済状況に立たされています。

農業、漁業、林業等の一次産業を基幹産業としている当町では、地域資源を見つめ直すことを「まちづくり」の基本方針としており、日本の食料基地として発展してきた特性を活かし、一次産業の更なる振興と合わせた加工による付加価値の向上、地域内外、道内外に提供するシステムの構築等を目指しているところです。

町内で生産した酪農製品43万トン、海産物77万トンは釧路港・小樽港・苫小牧港へトラックで陸送された後、本州へ出荷されていますが、苫小牧港への陸送ルートである一般国道38号は、近年多発している災害等で通行止めになることが多く（過去6年間で13回の通行止め）、当町を含めた東北北海道の経済活動に大きな支障をきたしており、災害発生時における代替性の強化に寄与するネットワークの整備が必要不可欠です。

また、釧路地域は、阿寒、摩周、屈斜路の3大カルデラ湖や雌阿寒岳、雄阿寒岳など火山・原生林を有する阿寒国立公園や釧路湿原など、自然環境にも恵まれており、一次産業を生かした酪農体験など、観光産業と一次産業との連携強化にも取り組んでいるところです。しかしながら、道東圏と道央圏を結ぶ高規格幹線道路等、広域観光の振興に資する高速交通ネットワークが整備されていません。高規格幹線道路の建設については、経済効果及び渋滞緩和、それによる環境汚染の防止といった都市部寄りの議論がある一方、地方では近隣都市の高次医療施設への搬送や防災時における避難路といった生命維持の役割も大きく、高規格道路の建設の遅れは都市と地方の経済格差を一層助長することとなります。よって、地域生活経済圏相互のアクセスを強化し、経済、社会、文化における広域的連携・交流を促進する高速道路ネットワークの早期の建設が必要不可欠です。

- 1 重点化を進める上で特に優先度の高い政策
 - ・ 災害に左右されない交通ネットワーク (R274)
 - ・ 高規格道路の早期建設

- 2 効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと
 - ・ 計画段階での第三者機関による事業効果の把握
 - ・ 事業の透明性の確保

- 3 その他、道路政策や道路の整備・管理全般に関する意見

現在、釧路管内の町村では、今後の釧路圏域としてのあるべき姿や、その発展の方策について広域的な論議を進めております。このことは、オール釧路として広域的な連携を進め、個々での振興から全体での振興を図っていくことを目指していこうとするものであります。今後、地域ビジョンを策定していく中で、経済活動などの基盤をなす必要な道路政策について、圏域としての声をあげてまいりますので、御協力をお願いするものであります。

(企画総務部企画財政課企画調整係)